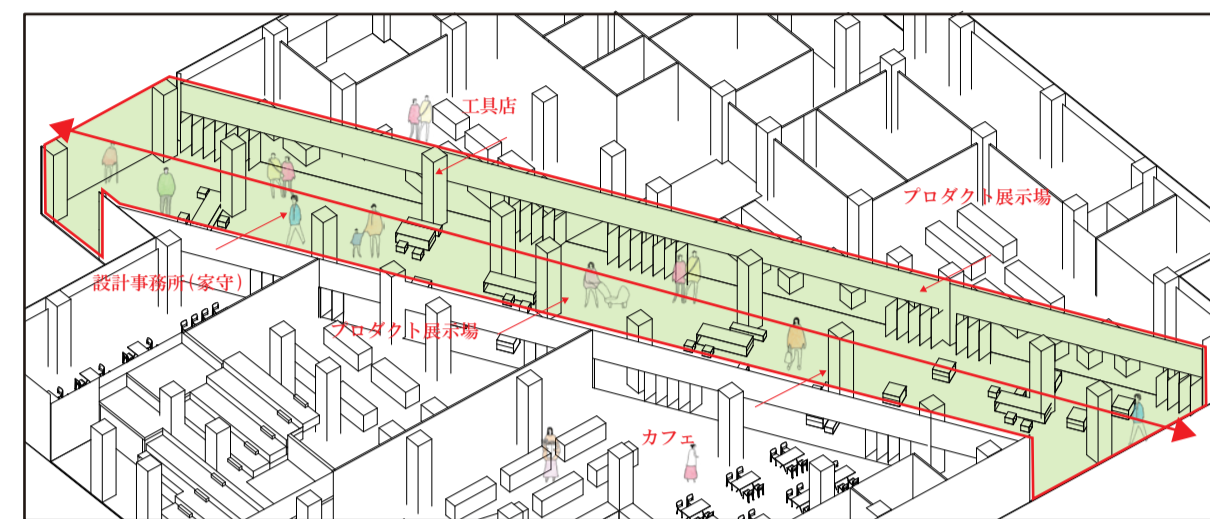
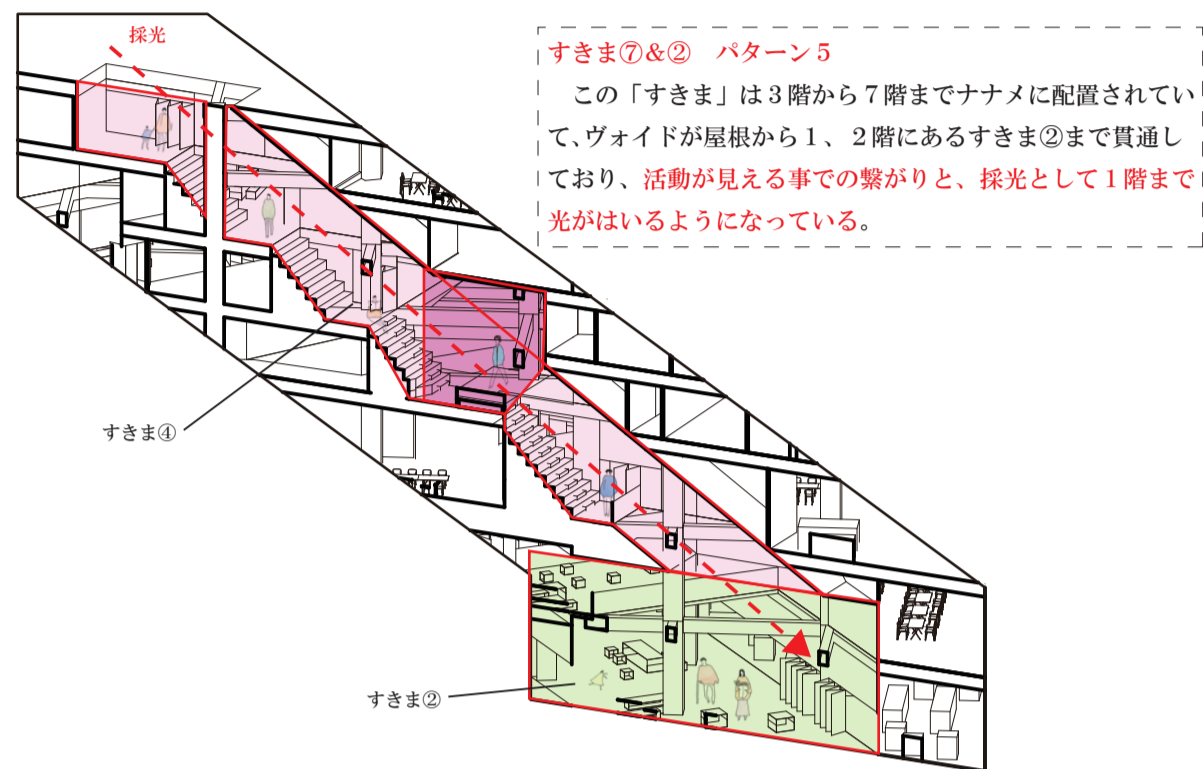
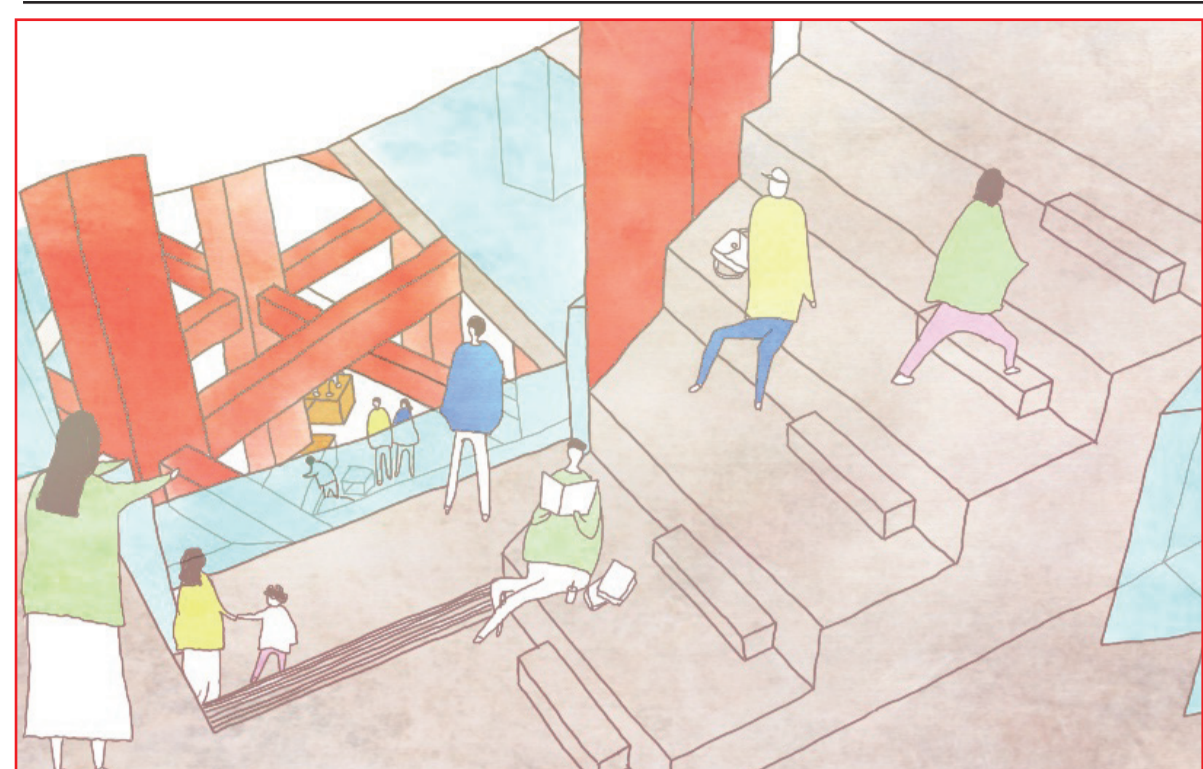


□「すきま」②



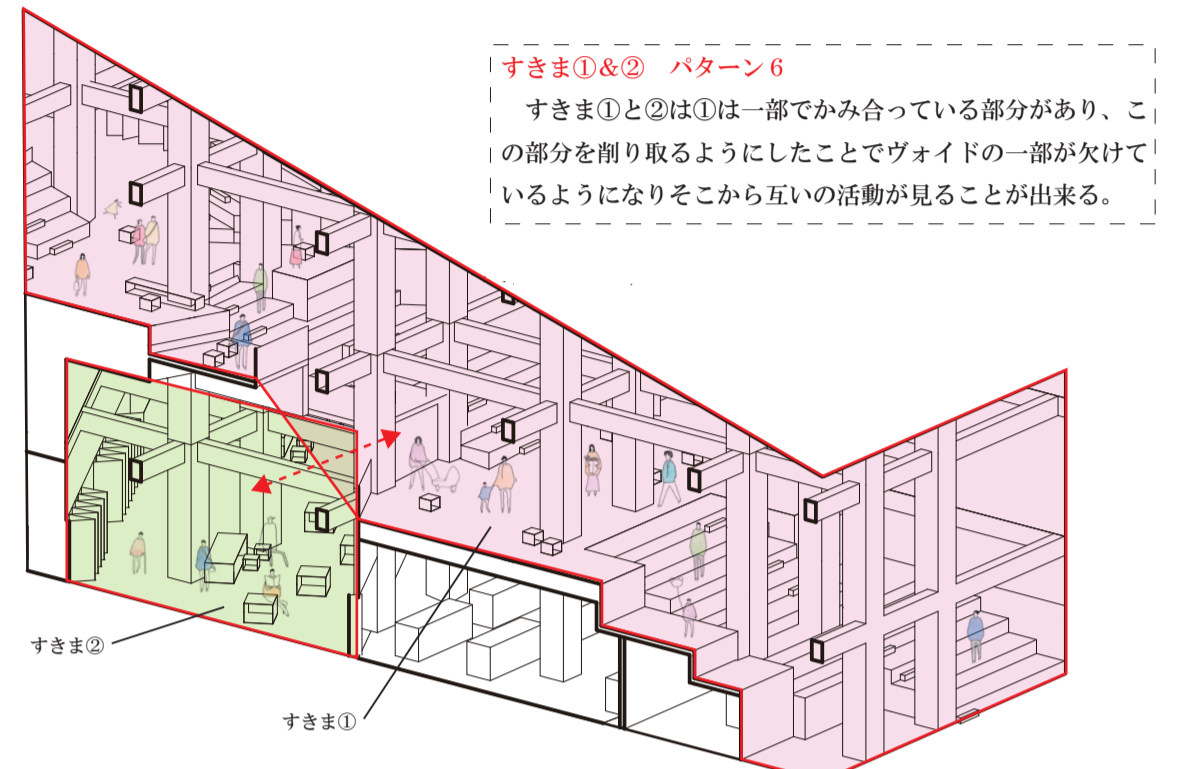
すきま② パターン2
この「すきま」は隣接商業ビルと住宅街側にかけて横断するように配置されており、「すきま」に面する複数のプログラムで起る活動が積み出されることで多様な活動が同時に存在するストリートになり、多様な活動、交流が誘発される。

□「すきま」⑦&②



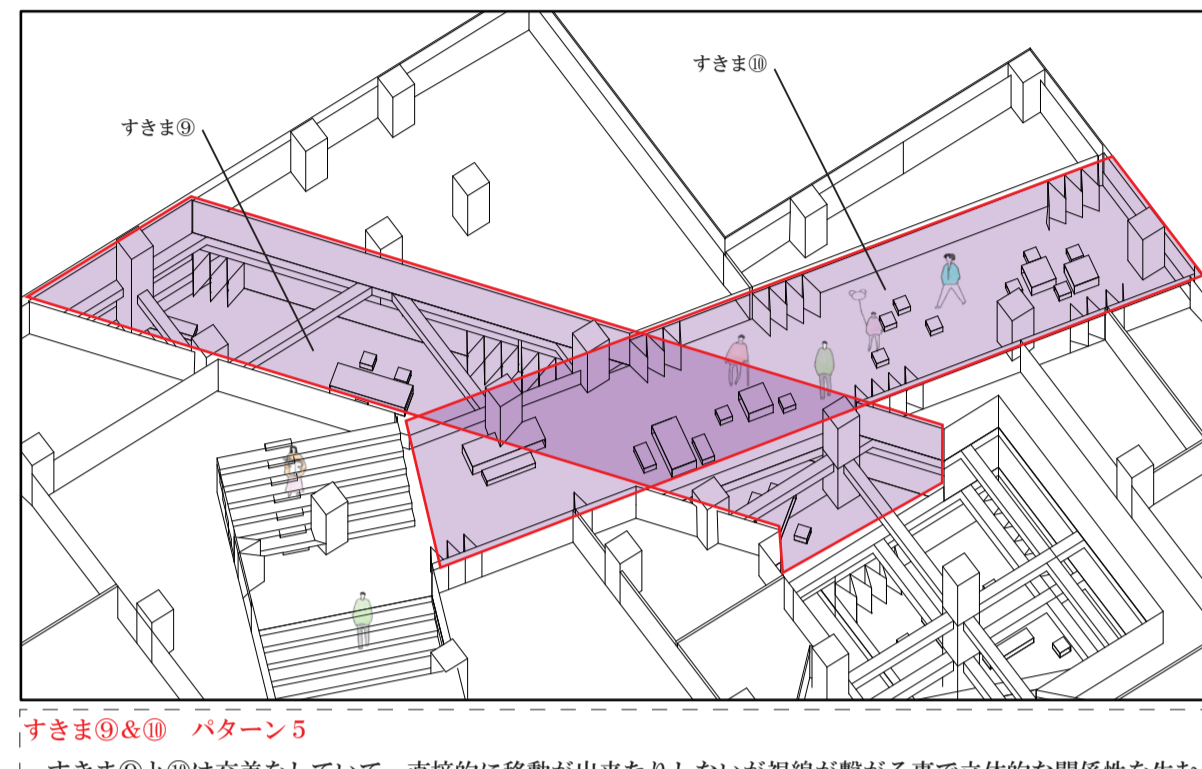
すきま⑦&② パターン5
この「すきま」は3階から7階までナナメに配置されており、ヴォイドが屋根から1、2階にあるすきま②まで貫通しており、活動が見える事で繋がり、採光として1階まで光は入るようになっている。

□「すきま」①&②



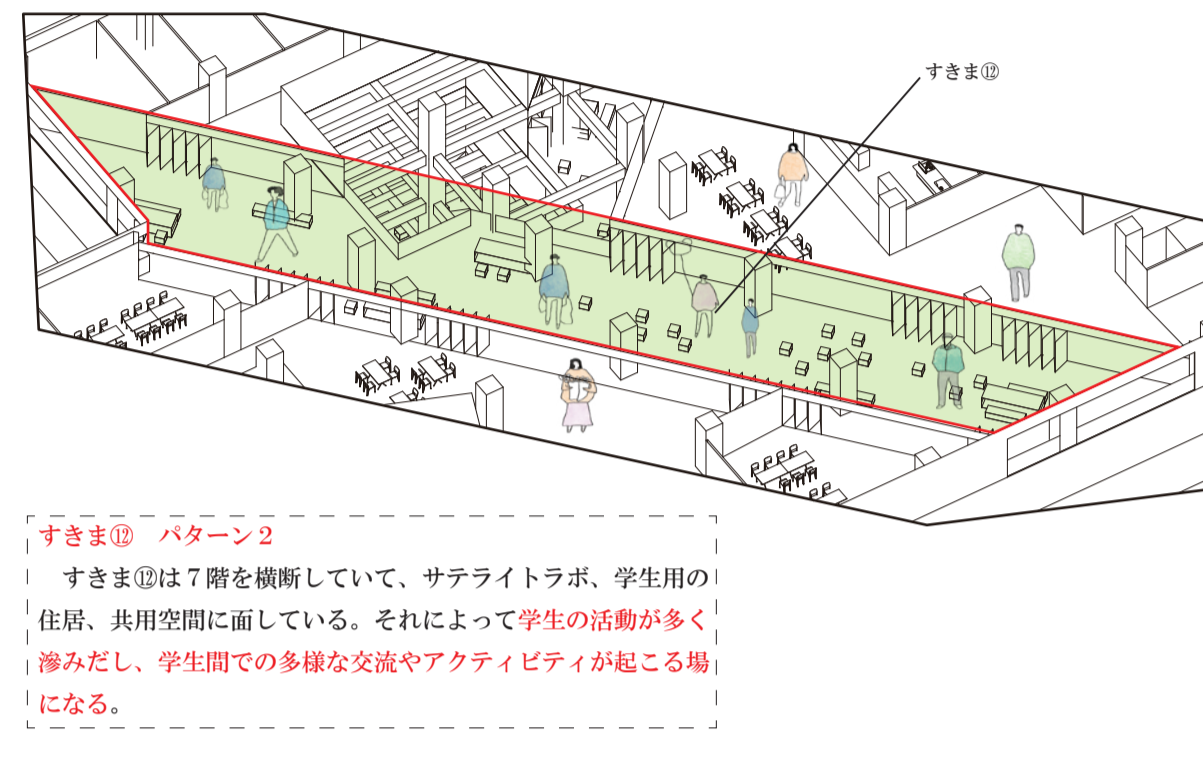
すきま①&② パターン6
すきま①と②は一部でかみ合っている部分があり、この部分を削り取るようにしたことによってヴォイドの一部が欠けており、活動が見える事で繋がり、採光として1階まで光は入るようになっている。

□「すきま」⑨&⑩



すきま⑨&⑩ パターン5
すきま⑨と⑩は交差をして、直接的に移動が出来たりしないが視線が繋がる事で立体的な関係性を生む。

□「すきま」⑫

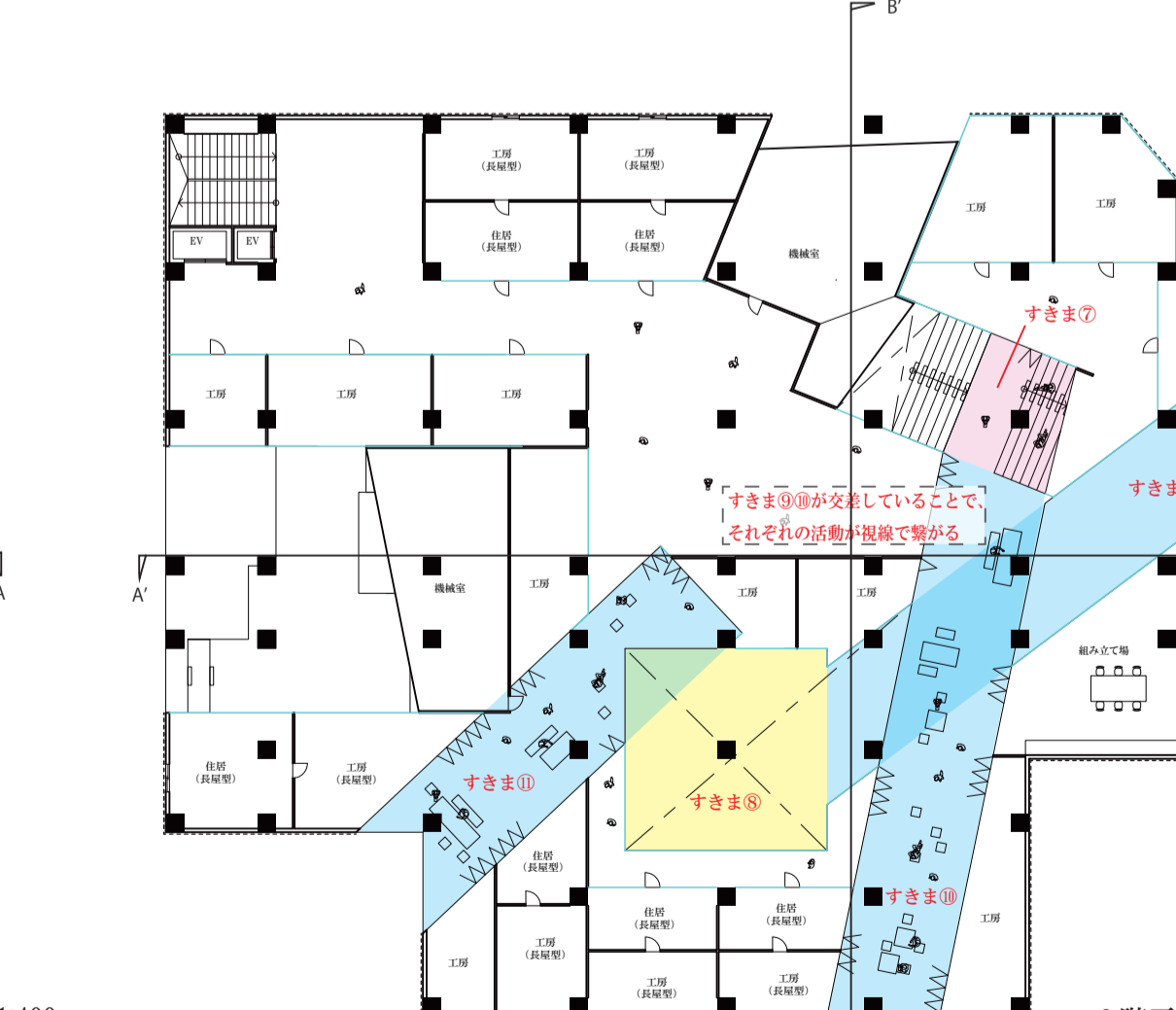
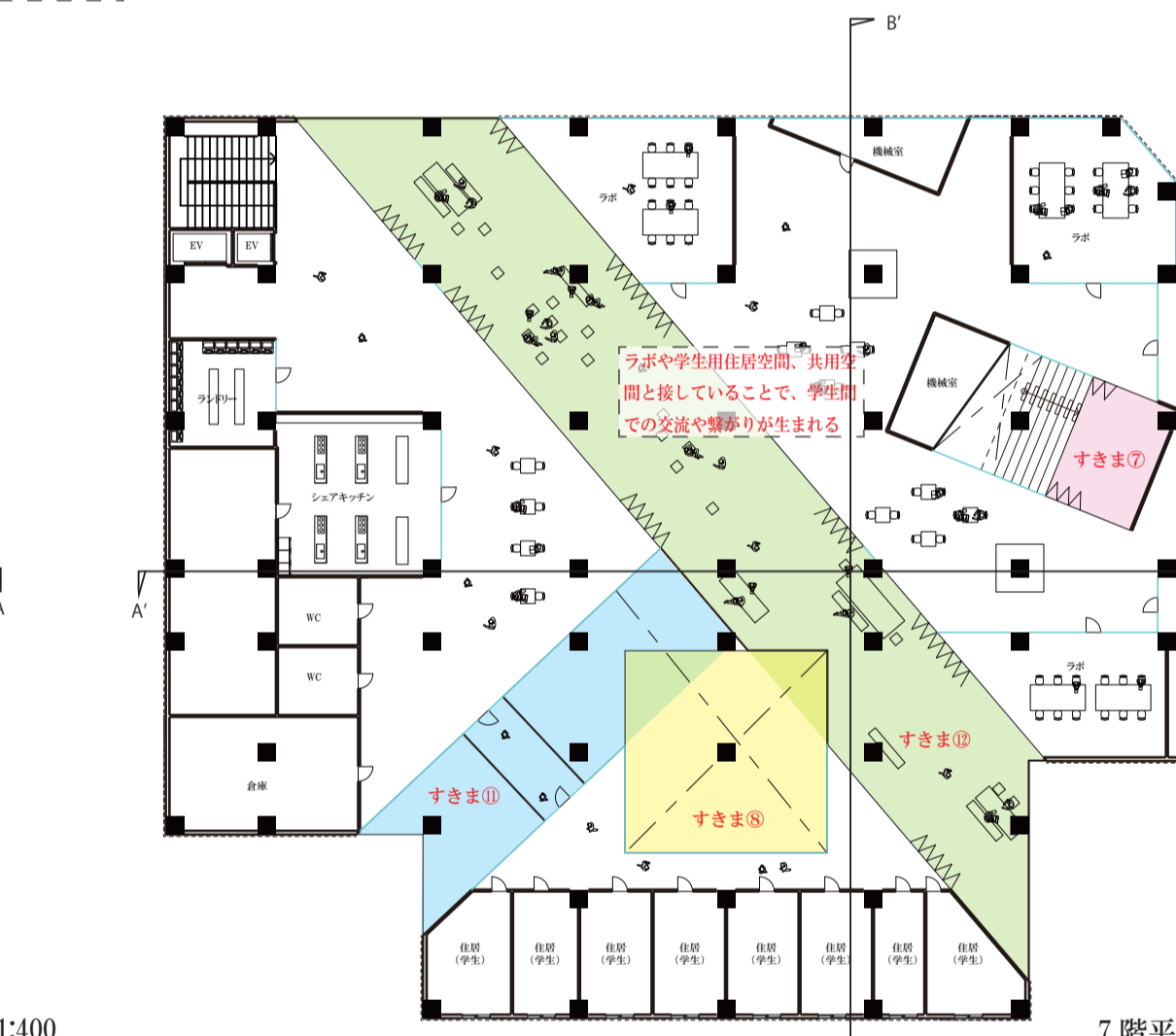
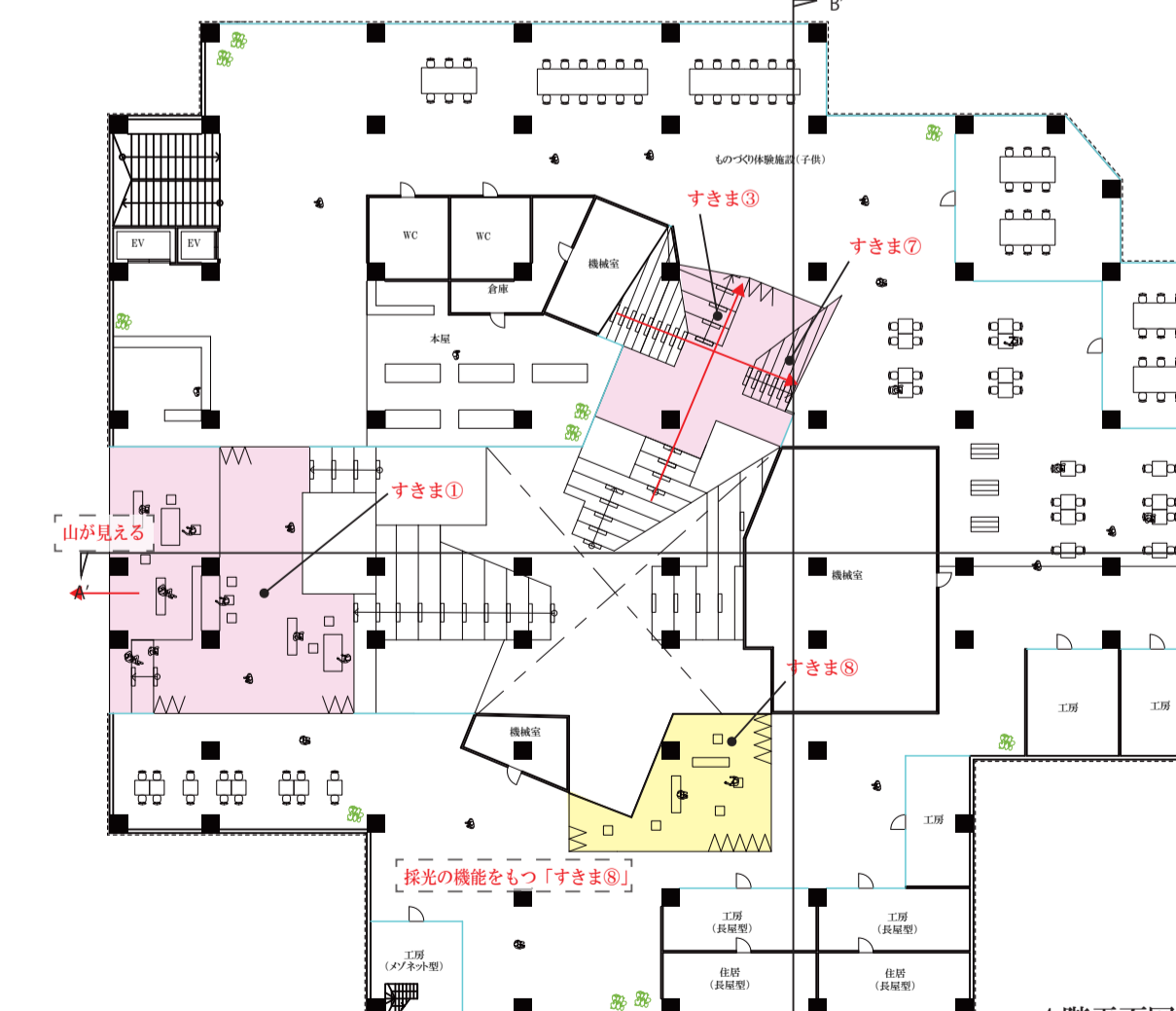
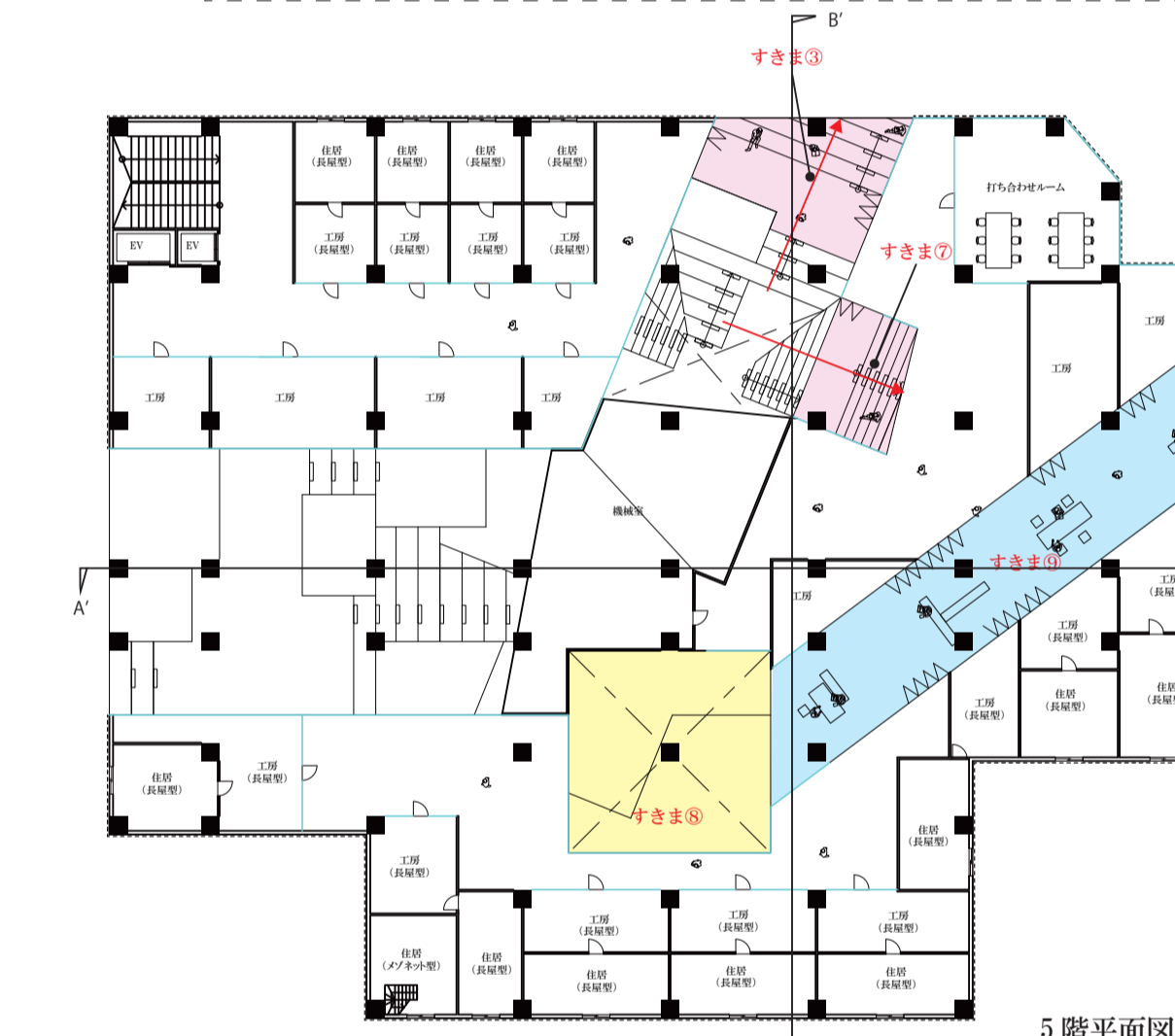
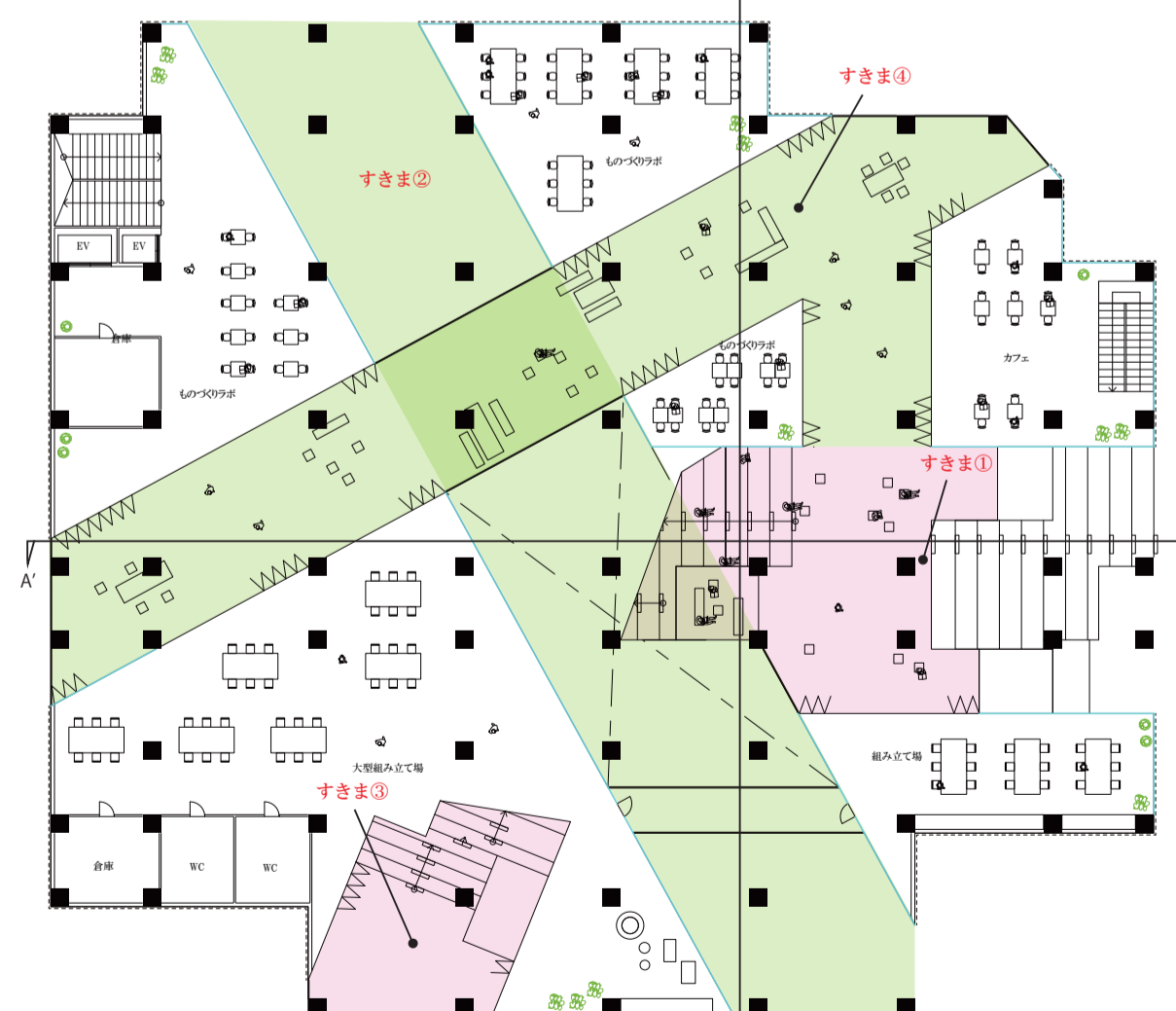
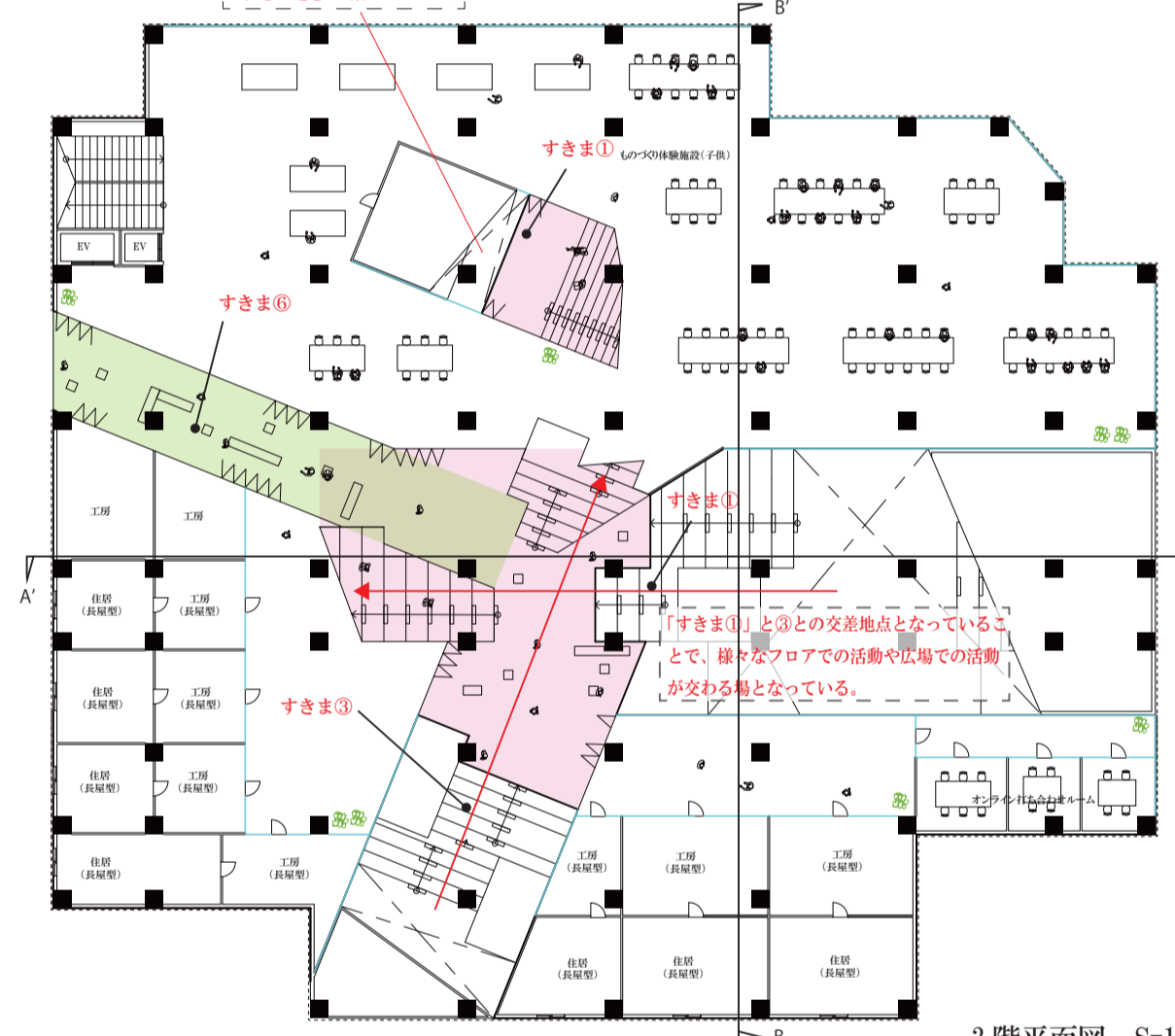


すきま⑫ パターン2
すきま⑫は7階を横断して、サテライトラボ、学生用の住居、共用空間に面している。それによって学生の活動が多く、活みだし、学生間での多様な交流やアクティビティが起こる場になる。



隣接商業ビルの通りと住宅街側の通りに向けて横断した「すきま」を配置することで、商業的空間と住居空間を繋ぎ、「すきま」に面するプログラムが積み出されることで多様な活動が同時に存在するストリートが生まれる。

すきま①
広場ろつなぎ、連続性を生むこと、と、この期にあるまちの人の活動を「すきま」に引き込む。



ラボや学生用住居空間、共用空間と接していることで、学生間での交流やアクティビティが生まれる。

すきま⑩が交差していることで、それによって活動が繋がる。

